

令和7年11月27日

久留米市議会議長 石井 秀夫 様

議会運営委員長 山田 貴生

委員派遣実施報告書

本委員会は、次のとおり委員派遣を実施しましたので、報告書を提出します。

記

- 1 日程 令和7年10月23日（木）～25日（土）
- 2 派遣先及び内容 岐阜県可児市：予算・決算の審議について
市民フリースピーチについて
地域課題懇談会や子ども議会の取組について
三重県四日市市：予算・決算の政策サイクルについて
議員間討議の活性化について
シティミーティング「ワイ！ワイ！GIKAI」について
- 3 派遣委員

委員長	山田 貴生
副委員長	坂田 光弘
委員	吉武憲治、田住 和也、権藤 智喜、そうだ耕一郎、 後藤敬介、石井俊一、山下 尚、藤林 詠子
- 4 報告書 視察報告書のとおり
- 5 その他 随行 長内 理早

視察報告書

委員会名	議会運営委員会
視察日時	令和7年10月23日(木) 午後2時25分 ~ 午後4時
視察先・概要	岐阜県可児市 人口：約9万9千人 面積：87.57k㎡ 議員定数：22人(現員数22人) 任期：令和5年8月11日～令和9年8月10日
視察内容	1 予算・決算の審議について 2 市民フリースピーチについて 3 地域課題懇談会や子ども議会の取組について
選定理由	可児市議会では、予算・決算の審査をサイクル化しており、決算審査の際は市長への提言を行っている。また、市民や子供の意見を聞く取組も行っており、今後の議会運営の取組の参考にするため。
調査概要	可児市議会では川上議長から挨拶を受け、引き続き、議長、鈴木議会事務局長から説明を受け、質問を行った。 <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="text-align: center;">＜可児市議会での視察の様子＞</p>
調査内容	1 予算・決算の審議について <ul style="list-style-type: none"> ・予算決算委員会は、議長・監査委員を除く20人で構成。 ・決算審査では、「重点事業点検報告書」を活用。この報告書は、市政経営計画の4つの重点方針に基づく事業ごとにまとめられており、実施した内容のほか、複数年にわたる予算執行状況・今後の課題が記載されている。 ・分科会（常任委員会単位）で提言案を検討。分科会で検討した提言案は、市民の意見を反映し、全会一致した内容を市長へ通知しており、翌年度の決算審査の際に対応結果の報告を求めている。 ・予算審査では「重点事業説明シート」を活用。決算審査の際、市長へ提言した内容がどのように予算に反映されたか、その状況を確認している。

	<p>2 市民フリースピーチについて</p> <p>3 地域課題懇談会や子ども議会の取組について</p> <p>(1)若い世代との交流サイクル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県立可児高等学校が求める「大人と関わる機会」と、議会が求める「若い世代の意見を聴取する機会」を設ける方向性が合致したことから、「キャリア教育支援」としてスタートした。テーマを設定し、議員や職員などと意見交換会やグループ討議を行い、議場で発表している。 <p>(2)議会が行う「主権者教育」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小・中学校、高校では積極的に「人を選ぶ」という経験が少ないことから、選挙の仕方と人の選び方を体験するという視点で実施した。 ・選挙公報の作成や選挙ポスター掲示のほか、選挙当日に部活動で不在となる生徒のために期日前投票を実施。生徒代表による趣旨説明、グループ単位での選挙公約の検証などを行い、投票用紙に記入する者をどうやって選ぶかということを体験している。 <p>(3)今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和3年の市民アンケートで「議会に関心がある」と回答した割合8.9%。令和5年7月執行の市議会議員選挙の投票率は37.57%で、議会への関心度が低下している。 ・そのため、イベント開催時に議会ブースを設けたり、予算審査の参考とするために議会報告会を2月に開催したり、議会を身近に感じてもらう取組をしている。また、議員研修会へ一般市民の参加を可能としている。
<p>主な質問・ 応答</p>	<p>問：可児市では1年で議長が交代しているが、1年では議長在職中にやりたいことができないという声も聞く。チーム議会的な形できちんと申し送りをすれば、1年で交代しても議会としての体制や方向性は4年間を通して大きく変わらないと考えるが、いかがか。</p> <p>答：課題が解決したものはいいが、解決せずに残っているものに対して、大きく方針が変わるようなことはない。方針を持って取り組んでいるが、やはり議長の任期は2年がベストかなと思うところはある。</p> <p>問：予算決算委員会の審査の流れをもう少し詳しく伺いたい。</p> <p>答：本会議の後に設けられる予算決算委員会で、執行部が概要説明をするが、約270事業あるため、前もって予算決算委員長と財政課、議会事務局の職員で説明を受ける事業を絞り込む。270事業のうち、必ず説明を求めるものは</p>

重点事業としている 80 事業。そのほか、前年比プラスマイナス 20%の増減がある事業、不用額が大きい事業も説明を求めており、110～120 事業ほどに絞られる。10 日から 2 週間後の予算決算委員会に向けて、各議員から事前に 110 項目程の質疑が上がってくるが、委員長の絞り込みにより、単純な質疑や意図が不明確な質疑は除かれ、全体で 60 項目ほどになる。質疑後、各分科会が最終提言に持って行く項目は 2～3 項目に絞られ、予算決算委員会でさらに議論を行った後、全会一致した項目（1～2 件）を市長に提言している。

問：子ども議会は、教育委員会との調整があると思うが、どのように取り組んでいるのか。

答：貸し切りバス代の予算がない学校があるため、議会に来てもらうのではなく、現在は議員が学校へ赴くアウトリーチでやっている。高校生議会は普通科の学校で行っている。実は、県教育委員会を通さずに 3 回くらい開催したところ、県からストップがかかったが、その後予算がついた。小・中学校は校長会がハードルだが、何とかクリアできると思う。これから取り組むのであれば、学校単位ではなく、夏休みの体験学習として始めるといいかもしれない。議場に来て、議席で質問する経験が主権者教育の第一歩ではないだろうか。議場は「神聖な場所」という方もいるが、実際に触れて体験してもらうために自由に使ってもらいたいのではないかと思う。

その他
(意見・感想)

・ 予算・決算の審査が分科会に付託されるなど、審査の方法は本市とは異なるが、決算審査で「重点事業報告書」を、予算で「重点事業説明シート」を活用し、事業の進捗管理を徹底されていることは素晴らしく、大変勉強になった。人口規模、事業数等を考えても、本市とは規模が違うものの同じような資料を要求し審査に臨むことが望ましい。

・ 委員長による質問事項の精査・選定により、委員（議員）間討議に多くの時間を費やして提言することで、提言が形だけで終わらず、対応後の結果報告を求めていることは参考になった。

・ 議会運営委員会で協議中の「子ども議会」については、若い世代とのかかわりも多岐に渡り、参考になる内容であった。議場の活用も含め、本市においても若い世代とのかかわりを深める活動につなげていくことができればと考えている。

視察報告書

委員会名	議会運営委員会
視察日時	令和7年10月24日(金) 午後2時 ～ 午後3時30分
視察先・概要	三重県四日市市 人口：約30万5千人 面積：206.5k㎡ 議員定数34人(現員数34人) 任期：令和5年5月1日～令和9年4月30日
視察内容	1 予算・決算の政策サイクルについて 2 議員間討議の活性化について 3 シティミーティング「ワイ！ワイ！GIKAI」について
選定理由	四日市市も予算・決算の審査をサイクル化している。また、議員間討議も活発に行われており、今後の議会運営の取組の参考にするため。
調査概要	<p>四日市市議会にて、荒木副議長の挨拶に引き続き、副議長、議会事務局 議事課 鹿島課長、岡田課長補佐から、予算・決算の政策サイクル、議員間討議の活性化、シティミーティング「ワイ！ワイ！GIKAI」について、説明を聴取し、質疑応答を行った。</p>  <p style="text-align: center;"><四日市市議会での行政視察の様子></p>
調査内容	<p>1 予算・決算の政策サイクルについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予算・決算議案は、予算（決算）常任委員会に一括付託。 ・予算（決算）常任委員会では、4つの分科会で審査。各分科会が所管する案件を審査し、可否を確認。分科会から全体会に案件を送る場合は、①附帯決議を付すべきもの、②修正すべきもの、③複数の分科会に係る事項等とする。 ・分科会での審査終了後、予算（決算）常任委員会調整会議を経由し、全体会へ①～③の案件が送られる。

・全体会では、委員長が①～③の内容を説明し、質疑を受ける。分科会で意見をまとめていた場合でも、ほかの議員から様々な意見が出されるため、委員長の力量が問われるとのこと。問題意識を持って委員会に臨み、アンテナを張っていないと対応が難しい場合があるということだった。

・全体会で議論し、意見を集約した案件を市議会としての提言にまとめる。決算は次年度の予算に反映されるように市長へ提言し、予算は提言が予算案に反映されているかをチェックし、次年度の決算審査でも引き続きチェックを行っている。

・決算審査の際の提言は、少数意見もできるだけ盛り込めるように、提言案を何度も練り直して全体合意に持って行っている。全会一致が原則なので、議員間討議で合意に至るまで協議を重ねているということだった。

2 議員間討議について

・政策立案機能の向上のため、議員が様々な課題で調査研究し、議論を行う場として、四日市市議会では「議員政策研究会」が設けられている。

・政策研究会の設置の目的は、条例化、提言、勉強会、意見書提出など様々で、研究会への参加は自由、令和7年度は1つの研究会が設置されている。

・研究会の設置期間は1年で議員間討議を中心として運営されており、議長への特別委員会の設置の申し入れや市長への提言を行っている。

3 シティミーティング「ワイ！ワイ！GIKAI」について

・シティミーティングとは、「出前型意見交換会」のこと。各常任委員会が、地域の高校・大学などに出向いて、意見交換会を開催している。

・教育民生常任委員会では、令和5年9月に中学生を対象にシティミーティング行うことを決定し、9～10月にかけて委員が教育部や校長会役員会で説明。開催校の決定後、11月に教育民生常任委員長、同副委員長が学校で打合せなどを行い、当日は3つのグループに分かれてディスカッションを行った。翌年1月の教育民生常任委員会で中学生の意見を整理し、今後検討すべき課題を抽出、委員会で今後の論点を確認し、所管事務調査報告書を作成している。2月には、授業の一環で生徒が一般質問を傍聴しており、その際に所管事務調査報告書を生徒にも渡している。

<p>主な質問・ 応答</p>	<p>問：予算・決算のサイクルをもう少し詳しく教えていただきたい。</p> <p>答：以前の決算審査は、「すでに終わったもの」を審査するという感覚だった。しかし、決算審査での課題を次年度の予算に反映させることが大事ではないかということで、決算審査に力を入れ、課題を抽出した結果を予算に反映させるというサイクルができた。分科会で審査をする過程で、委員間討議を行うが、そこでの発言が後々の提言に生きてくる。分科会として全体会に上げる内容については全会一致したものであり、さらに全体会で議論し、来年度予算に反映させると認められれば提言に盛り込む。</p> <p>基本的には、執行部からの説明を受けた後、質疑、討論、採決となるが、予算の使途や事業に疑問があれば、各委員長の采配で発言しなかった委員も巻き込んで委員間討議を行っている。一議員の意見では執行部は動かないが、委員会として合意が取れ、さらに全体会でまとめた意見であれば執行部は無視できないと思う。政策を実現するためのプロセスとして、一議員が行動するのではなく、議会全体として行うことで実現力の高いものになると考えている</p> <p>問：提言内容が新規事業の実施や既存事業の拡充を求める場合、必要な予算を確保するため、執行部は既存事業の縮小や廃止を検討すると思うが、これまでそのような事例はあるか。</p> <p>答：提言した事業を充実するために、ほかの事業が縮小・廃止された経緯はないと思う。提言を作成する際には財政部長も同席している。四日市市も平成15年頃は財政状況が非常に厳しく、執行部の努力で現在の状況がある。議会からの提言は重いものだと思うが、そこは歴代の財政当局がやりくりして進めてもらっている結果だと認識している。</p> <p>問：令和5年の教育民生常任委員会の事例を説明いただいた。このような取組が政治に興味を持つきっかけになると思うが、その時の中学生の反応を教えてほしい。</p> <p>答：一般質問を傍聴した際の質問は、中学生から寄せられた意見を基に行った質問だった。議会との取組の中で、自分たちの意見がないがしろにされることなく取り上げられ、オフィシャルな場で教育長や子ども未来部長が答弁するシーンを見ていただけたことはよかったと思う。自分たちの声</p>
---------------------	---

	<p>が大事にされているということは感じ取っていただけたと思う。</p> <p>問：議会政策研究会の仕組みについて、詳しく教えてほしい。</p> <p>答：議会政策研究会は有志が集まって行う勉強会のため、研究会への参加は自由で20人くらいの時もあるれば、5～6人の時もある。研究会の数も多い時には複数立ち上がっている。これまでも、議長への特別委員会設置の申し入れや条例制定を目指すための研究会等、様々な目的で設置されている。</p> <p>問：文書質問の件数や内容は。</p> <p>答：件数はそれほど多くない。通年議会制をとっているが、基本的には年4回の定例開催なので、その間の期間（久留米市での閉会期間中）に、今この時期にタイムリーに質問しないといけないということで質問が上がってくることもあるが、内容は様々である。</p>
<p>その他 (意見・感想)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 予算決算審査は分科会方式となっており、特定の分野に集中して審査している。久留米市議会の特別委員会方式とは異なるが、それぞれの利点を考慮した上で、どのように考えるか研究が必要である。 ・ 審査時のチェックシートの活用や、分科会・全体会の役割を明確にした上で全議員による議論を行っている。多様な意見を取りまとめて合意形成を図らなければならないことから、分科会・全体会を問わず、それぞれの委員長の課題認識や情報収集力などの力量が問われる点は可児市議会と同様の印象を持った。 ・ 提言に関しては、財政状況に余裕がある部分も大きい。本市において、どのように導入できるかということについては、しっかりとした検討が必要である。 ・ 議会政策研究会の取組は興味深い。議員有志により、自由な討論をする場を仕組みとしてつくっている。この取組は、政策立案のための新たな手法として本市でも導入することができるのではないかと考える。 ・ シティミーティング（出前型意見交換会）については、久留米市議会でも検討中の子ども議会の取組において、取り入れることのできる内容が多々あったように思うので、今後さらに研究・検討を進めたい。